



進路選択の先にある、将来を見つめて

進路指導主任 亀井貴洋

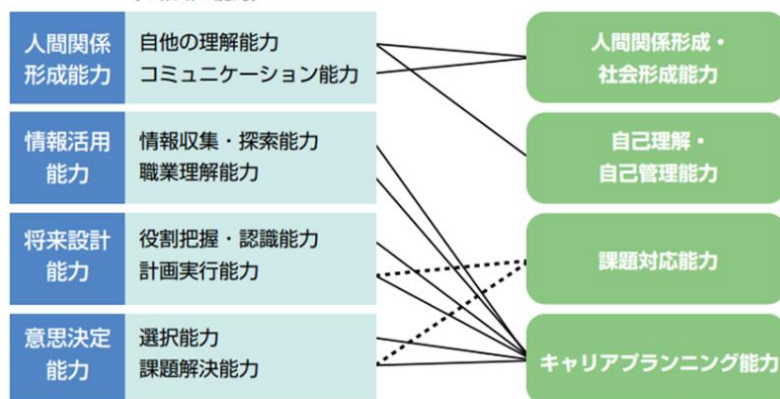
1 学期も半ばにさしかかりました。新しい学年や新しい生活にも慣れてきたころではないかと思います。保護者の皆さまには、ご多用のところ、各学年の授業参観や学級懇談会等で、本校までご足労頂き誠にありがとうございました。6年生と9年生には進路説明会を実施しました。在外教育施設からの出願手続きや受験についてお話をさせていただきました。お子様の進路実現にむけて、どうぞ支援ご協力よろしくお願いいたします。

バンコク日本人学校の最高学年である多くの9年生にとって、初めての大きな選択となる、進路選択が控えています。その時に、「これから続く道を想像し、生徒自身がやりたいことや、挑戦したいこと、得意なことを生かせる路を考え、判断し、夢や希望をもって選択できるかどうか」がとても大切です。そして、これらの力を養うのが9年間の義務教育の期間であり、本校でもこれらの力を養うことができるよう“キャリア教育”に取り組んでいます。大まかなキャリア教育の流れは、裏面の図のようになります。キャリアや進路という言葉を見ると、どうしても中学校や高等学校の受験を思い浮かべますが、幼い時から積み重ねられているものでもあり、大人になっても続くものなのです。

キャリア教育の定義は、「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成することを通じて、キャリア発達を促す教育」とあります。ここにある必要な基盤と能力は、4領域8能力で、これらが関わりあって「基礎的・汎用的能力」へとつながります。「基礎的・汎用的能力」とは社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力に含まれる要素の一つとされています。これからの進路選択をするときに、日々の生活で積み重ねる多くの経験が、子どもたちの進路選択の選択肢を増やし、将来を考える豊かな想像力を育み、そして自身の「進む路」を決断する糧となることだと思います。

キャリア教育は人生に関わる教育であると考えられます。それは言い換えれば、今を生きる大人にも、意義のある深い学習となるからです。人は生きていく上で、どこかでつまずくことがあります。子どもだけではありません。大人だってそうです。そんな時、自分の役割を見直し、未来を見据え、自信をもって歩いていくことで、人生をより希望に満ちたものにするでしょう。キャリア教育で身につけた「基礎的・汎用的能力」が大いに役立つことだと思います。

「キャリア発達にかかわる諸能力（例）」
（4領域8能力）



※図中の破線は両者の関係性が相対的に見て弱いことを示している。「計画実行能力」「課題解決能力」という「ラベル」からは「課題対応能力」と密接なつながりが連想されるが、能力の説明等までを視野におさめた場合、「4領域8能力」では、「基礎的・汎用的能力」における「課題対応能力」に相当する能力について、必ずしも前面に出されてはいなかったことが分かる。

本校の進路指導目標は『児童生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもち、自らの意思と責任で主体的に進路を選択する能力・態度を身に付けることができるよう、学校全体の教育活動を通して組織的・継続的な指導と援助を行う』です。この目標を達成できるよう、保護者の皆様と協力しながら日々の教育活動に励んでまいります。これからもどうぞ、よろしくお願いいたします。

